身近なものを使って、ふしぎな楽器を作ってみよう

開催日：2023 年 8 月 22 日、23 日　@アクトシティ浜松研修交流センター

身の回りには音の鳴るものがたくさんありますが、演奏できるような楽器にするには、工夫が必要になってきます。
今回は 2 日間のワークショップをとおして、身近にあるものから楽器を作り、演奏することに挑戦しました。講師は、ペットボトルや空き缶などの廃品を、独創的なアイデアで楽器に変える楽器発明家の「みらい楽器ラボ　創」さんです。

～1 日目～

最初に創先生が、自分で作った楽器を演奏しながら自己紹介をしました。演奏は、いくつかの楽器を使って行われました。また、音が鳴る仕組みや、楽器の音の高さを変える方法についても説明がありました。音階のある楽器もあり、廃品からもキレイな音色の楽器を作ることができると感じることができました。

演奏を聴いた後は、創先生の作った楽器を参加者の皆さんが体験しました。
実際に自分で使ってみることで、参加者の皆さんは創先生の楽器に対して、更に興味を持った様子でした。

創先生の演奏の様子

楽器体験の様子

いよいよ楽器づくりを始めていきます。
最初に作ったのは、ペットボトルにタイヤチューブのバルブを取り付けた楽器「エアコーク」。この楽器は、空気入れを使ってペットボトルの中に入れる空気の量を調節して、音の高さを変えることができます。空気が抜けないように接着剤でしっかりと固めました。
みんなでの合奏に向けて、1 人ずつ違う音階になるように、スマホのアプリを使って音の高さを調節しました。

エアコークを作る様子

～2 日目～

昨日に引き続き、楽器づくりを始めていきました。

ペットボトルのリード笛を作る様子

まずはペットボトルのリード笛を作りました。リードとは薄い板状のもので、震わせることで音が出る部品です。この楽器は、ペットボトルにカッターでコの字に切れ込みを入れることでリードと同じような仕組みを作ります。
ペットボトルに息を吹き込んだところ、すぐに音が鳴りました。リード部分の振動する様子も確認でき、参加者の皆さんは集中して見ていました。この楽器は、リード部分の長さを変えることや、重りをつけることで、音を変えることができます。しかし、狙った音の高さに調整するのは難しいそうです。

ヒートガンを使う様子

ペットボトルのシェイカーは、熱風を送る道具（ヒートガン）を使ってペットボトルを固くし、その中に米を入れて作りました。ペットボトルを固くすることで、音のメリハリを出しやすくなります。ひと工夫すると楽器の完成度がグッと上がりますね。演奏に備えて、シェイカーを使って 4 拍子のリズムの取り方も教わりました。

ペットフォンの音の高さ調節をする様子

ペットボトルの底を切り取って作ったペットフォンは、キャップをたたいて音を鳴らす楽器です。はさみで切ってペットボトルの長さを変えることで音の高さを変えることができました。この楽器もスマホのアプリを使って音の高さを調節しました。

その他にも、ペットボトルのキャップを使ったオカリナや、ペットボトルのキャップを使ったチャフチャスなどを作りました。チャフチャスは、ひもで物をたくさん吊るした楽器で、揺らすことで互いにぶつかって音が鳴ります。チャフチャスは、参加者の皆さんが協力してキャップをつなげて完成させました。

チャフチャスを作る様子

お昼休みを挟んだ後は、作った楽器を使って演奏をしました。
まずは、創先生の演奏に合わせてシェイカーでリズムを刻みました。次に、1 人 2 音のエアコークやペットフォンを使って、メロディやコードを演奏しました。

合奏の様子

楽器づくりでは、ペットボトルを使った楽器を 7 種類も作りました。たたく、吸う、吹く、ゆらすなど様々な方法で音を鳴らすことができ、音階を作ることができる楽器もありました。楽器を作るだけでなく、作った楽器で合奏することで、自分の作ったものへの関心が深まった様子でした。

最後に、ワークショップをとおして学んだことを基に、自分で作ってみたい楽器を描きました。参加者の皆さんは、使う素材や楽器のイメージができている様子で、すぐに創作楽器を描いていました。
「今回作った楽器はホームセンターで売っている道具を使ってできるものばかりです。大切なのは自分で工夫することです。」と創先生からまとめがありました。皆さんワークショップが終わった後も、自分の考えた楽器を作ることに挑戦できるといいですね。

考えた創作楽器を発表する様子

集合写真